

じんげん ア ジ ール asile

大谷大学広報誌

Autumn & Winter 2012

良い情報は人を刺激し、
新たなつながりを生み出す。

This theme

コミュニケーション

携帯電話やスマートフォン、iPadなどモバイル端末の普及により

メールやSNSなど、ネット上における交流の場が増えています。

その一方で、希薄化する人間関係が問題視される現代社会。

本当に必要なコミュニケーションとは何なのかを

「情報」に関わるそれぞれの立場から語り合いました。

日々の中で活用する さまざまな情報ツール

村山 今回のテーマは「コミュニケーション」ということで、情報化社会における人間の在り方を学ぶ人文情報学科の福川さん、大谷大学新聞社の主幹として情報を発信している具志堅さんに集まっていたくださる情報ツールについて聞かせてください。

福川 私の学科では、iPadを活用した授業が行われています。アプリでの出欠確認に始まり、質問への解答や意見投稿、レポート提出など、いろんな場面でiPadを使いますね。

もちろん、PCも活用しています。

村山 最初にiPadを使うと聞いたときは「面白い試みだな」と思いましたが、実際どうですか？

福川 面白いし、画期的だと思えます。iPadはこれからの社会を担う次世代ツールと聞いていたので、それを大学で使えることが嬉しいです。

村山 一方、具志堅さんが携わっている新聞はアナログな紙媒体ですが、なぜ今、それを選んだのですか？

具志堅 きっかけは商店街の方との会話です。「大谷大学の学生です」と話したところ、「ああ、お坊さんの大学ね」と言われました。間違いではないですが、谷大の特徴はそれだけ

ではないですよ。大学HPではいろんな情報を発信していますが、年配の方でPCを持っていない方はまだまだ多い。それなら手軽に手にとって見てもらえる新聞を作ろうと。

村山 確かに、相手によつて適切なツールを考えることは大切ですね。僕自身は現在、入学センター長として『大路小路』というブログを作成しています。ネット上での情報発信やメールでのやりとりも行いますが、同時に大切にしているのが個人研究室で学生たちと直接おしゃべりする時間。教室での授業だけが教育ではないと考えています。雑談したり、時には人生について語ったり、そういう時間が大事だと思っています。

哲学科准教授
入学センター長
村山 保史

人文情報学科 第3学年
福川 倫子

哲学科 第2学年
大谷大学新聞社主幹
具志堅 倫護

一番大切なのは人と どう関わっていくか

福川 私もツイッターやフェイスブックは使いますが、人としゃべるのが好きなのでそのようなアプリに頼りたいとは思ってないですね。でも、速いですし、時間や場所を問わずに連絡が取れたり、相手の状況が分かるのはとても便利です。

村山 時間的なロスや空間的な隔たりを超えることができるわけですね。

具志堅 その一方で、コミュニケーションが定型化してしまうようにも感じますよ。また、ツイッターやフェイスブックは複数の人間に見られるので、そうした他人を意識した形だけのコ



コミュニケーションになつてゐるんじゃないかと…。

村山 速さと便利さがあるが故に、ネット上だけの対話ですべてを済ませることもできてしまいますしね。

具志堅 なんだかそこに、人間味が無いというか冷たいというか(笑)。

福川 確かに、全てをアプリに依存するのは良くないと思います。ネット上の自分と現実世界の自分がかけ

離れていつて、本来の自分を見失ってしまうのも問題ですよ。

具志堅 顔を付き合わせて対話している、その人の悩みとか葛藤とかが見えてくる。そうした対話の過程が、相手の心情を理解する上でとても大切だと思うんです。

村山 いろんなツールがあるということは、ある意味、楽なこともありますが、学校に来なくてもレポート提出

したり最低限のコミュニケーションは取れますしね。でも、そうすると大学って何のためにあるの？ということになると思うんです。

具志堅 僕は将来教員を目指している、いろんな人と関わっていくことも大切な勉強だと考えています。

福川 ツールはあくまでもコミュニケーションの手段。何を介在するにしても、大事なはどう人と関わるかということなんじゃないかな。

真のコミュニケーションとは相互に信頼関係を築くこと

村山 僕が最初に、学生たちとのおしゃべりの場を大切にしていると言ったのも、まさにそこなんです。そもそも上手く人と関われないのには理由があって、ひとつは自分に自信が持てないこと。そしてもうひとつが人を信用できないこと。長々と自分の意見だけを一方的に話すのも、そうしなければ聞いてもらえないんじゃないかという不信感がある。だからこそ、人に話をすると同時に、人の話を聞くー相互のやりとりが必要だし、それによって信頼関係を築いていくことが本当のコミュニケーションだと思いますね。

福川 私はツイッターを使って情報収集をするんですが、そこで知り得たことを「今度友だちと話そう」と次の対話につなげていくんです。あるいは、好きな写真を撮ってブログにアップすれば、親近感を持つてくれた人と新しい輪が広がっていくし。

具志堅 僕が『大谷大学新聞』をやるうと思ったのも、もつと谷大の魅力を知ってもらいたかったから。谷大らしさを伝えていくことで、周りのとのより良い関係につなげていければと思いますね。

村山 学生の皆さんには、まず自己表現できるようにしてもらいたい。それは、表現するに値する自分だと確固たる自信を持つてもらいたいし、それと同時に、ちゃんと人の話を聞いて相手を理解、信頼する…そういうコミュニケーションをしてほしい。

福川 そういう意味でも、もつと学生が発信する場がほしいですね。せつかく情報を発信するためのツールもあるし情報について学んでいるので、人文情報学科として率先したいなと。

具志堅 学生が主体になつて谷大を紹介するオープンキャンパスなどもすごく良い機会ですよ。

村山 良い情報は人を刺激し、新たなつながりを生み出しますから、お互いに上手く活用したいですね。

紫明祭

2012

今年のテーマは「一束一祭」

今年も大谷大学に活気の溢れる時期が近づいてきました。紫明祭を開催できますことを学生の一人としてたいへん喜ばしく思います。皆様楽しんでいただけるよう実行委員一同全力で準備を進めています。

2012年度大谷大学学園祭「紫明祭」のテーマは「一束一祭」です。「全体の中に個があり個の中に全体がある」という意味の仏教用語をなぞり、一つずつを束ねて一つの大きな祭にするという意味を込めたテーマ

となっております。

紫明祭は私たちだけでは行うことが出来ません。仏教用語の意味から学生だけではなく、地域住民の方、教職員・来場者の方、その他にもたくさんの方の「一人の協力や愛情」があつて、その全てが結束し紫明祭が出来ることを意識しこのテーマとしました。たくさんの方が行動してください。たくさんの方がこの大きな学園祭を実行委員である私たちも一人ひとり全力でつくり、皆様の思い出に残る素敵な学園祭をお届けしたいと考えています。

毎年紫明祭で多くの笑顔や思い出が生まれています。ぜひ最高の思い出をつくりにきてください！皆様のお越しをお待ちしています！



学園祭実行委員会委員長
真宗学科 第3学年
今 湊 良 祥

紫明祭

2012

イベントスケジュール



11月9日(金)

前夜祭 Sparkling -Jump for joy-

時間 17:10 ▶▶▶ 19:30

2012年度紫明祭を盛り上げるための前哨戦。ピンゴやタップダンスのパフォーマンス等。

11月10日(土)

プロアーティスト コンサート

時間 未定

プロのアーティスト「BENI」によるコンサート。詳細は学園祭ホームページ (<http://shimeisai.com/>) をご覧ください。

11月11日(日)

Sunken festa ～大谷ロックフェス～

時間 12:00 ▶▶▶ 15:30

学内や他大学の音楽団体の生ライブ。団体同士のコラボレーションライブもあり！

後夜祭 ～ヒナ舞祭～

時間 16:00 ▶▶▶ 19:00

今年度の紫明祭を締めくくる笑い涙のフィナーレ！



11月10日(土)・11日(日)

各クラブの日頃の活動成果を展示・発表します。また、キャンパス内には50以上の模擬店も出店予定。





●紹介してくれた社会学科・社会福祉学コース 志藤ゼミ(第3・4学年)のみなさん
※湖西キャンパスセミナーハウスでのゼミ合宿にお邪魔しました。

私たちの先生

年齢の隔たりや壁を感じさせない 何でも話せる気さくな先生です。

授業についてはもちろん、人生の悩みや将来の相談、はては恋愛まで、いろいろなことを気さくに話せる志藤

先生。先生のゼミを選んだ理由も、その親しみやすい人柄に惹かれて、という学生が数多くいます。

そんな志藤先生の研究テーマは「地域福祉」。実際に地域に足を運び、住民の方々から生の声を聞くことで実体を明らかにし、そこから地域社会における福祉の在り方を考えていくというもの。さまざまな調査活動や積極的に参加するボランティア活動など、「実践」を通しての学びは、生きた知識が身に付くだけでなく、自ら考え気づいていく力や、自主性や行動力を養っていくことができます。なかでも、地域の高齢者からこれまでの人生についてお聞きし、一冊の本にまとめる「伝記づくり」は、人が生きていくとはどういうことなのかについて、深く考える貴重な機会を与えてくれます。



社会学科
准教授
志藤 修史

龍谷大学大学院文学研究科修士課程修了。1991年社会福祉法人京都市社会福祉協議会就職、2005年同退職。2005年大谷大学文学部専任講師、2008年同大学准教授、現在に至る。社会福祉士。
【主な担当授業】
社会福祉学演習、地域福祉論専門 / 社会福祉学

そうした私たち学生の活動を、同じ目線で共に考え、同時に適切なアドバイスをくれる志藤先生は、何だか「先生」というよりも「頼もしい仲間」といったイメージ。授業をはじめ、飲み会や遊びの場でも、年齢の隔たりや壁を感じさせない、とても身近な存在ですね。
多くの人と触れ合い、また、みんなで見聞を出し合ってさまざまな価値観を学んでいく…ひとりきりでは得られない大切なものを教えてくれる、頼もしく魅力的な先生です。

先生から 学生たちへの メッセージ

文献や資料を取り上げ検討するだけではなく、地域の現場で実際に起こっている事から制度や福祉を考えていく実践的な研究が、当ゼミのスタイル。ともしれば抽象論になりがちな地域福祉論を、実際の状況から組み立て直していくことにより、本当に必要なくらし・地域福祉とは一体何かを明らかにしていくことが狙いです。その中でも、学生たちの調査活動はとても重要で、学生たちは私にとって同じ研究を志す「仲間」であり、時には若者世代を教えてください「先生」でもあります。自分とは違う人生や価値観に触れる学びは、新しい力を生み出す大きな糧になるはず。自分だけの殻に閉じこもらず、より広い視野を養って、社会で活躍してほしいと思います。



トキ ピキャン ツン クパス ス

Spring ▶ Summer

2012

TOPICS

トピックス

4月7日(土) 新入生歓迎イベント 「若葉祭」開催

新入生歓迎イベントである「若葉祭」が開催されました。ステージでは、各クラブのパフォーマンス、ダンスやライブで盛り上がり、学内の至るところでは、新入生を勧誘する姿が見られ、例年以上に活気あふれる若葉祭となりました。

また、新入生歓迎実行委員会が、近隣の伊藤珈琲の協力のもと、独自にブレンドしたコーヒー「Otani Coffee」の無料試飲会も行いました。このコーヒーは、大谷大学の新しいオリジナルグッズとして販売しています。



6月28日(木) 大谷大学 奨学生証書授与式を挙

6月の御命日勤行・講話に引き続き、「大谷大学奨学生証書授与式」を講堂にて執り行いました。

本学では、その勉学と人間育成を勧奨し、前途有為な人物を社会に送り出すことを目的として、人物・学業成績が特に優秀な学生に育英奨学金を給付しています。

授与式では、文学部51名、短期大文学部3名、大学院修士課程21名、博士後期課程8名の育英奨学生、また大学院博士後期課程外国人特別奨学生1名に対し、草野顕之学長より奨学生証書が授与されました。



7月13日(金) 石間奨学金 奨学生証書授与式を挙

「石間奨学金奨学生証書授与式」を尋源講堂にて執り行いました。今年度は、14名の出願者があり、選考のうえ、奨学生として第4学年の長峰彩香さん、中西鞠奈さん、長村澁平さんが採用されました。

6年前から始まった石間奨学金は、石間裕氏からの寄付金を財源としており、学費の支弁が困難にもかかわらず、大谷大学での学びに強い意欲をもち学生生活を送っている学生に対して給付されるものです。授与式において、草野顕之学長より証書が授与され、続いて石間氏より記念品が贈られ、卒業に向かつてのはなむけの言葉がかけられました。



その他2012年度のニュースはこちら → 大谷大学ホームページ <http://www.otani.ac.jp/2012>

剣道部

第54回京滋学生剣道大会
男子二段以下の部 優勝
村山 匠 / 真宗学科第1学年
男子二段以下の部 準優勝
山崎 佑也 / 歴史学科第1学年

ソフトテニス部

関西学生ソフトテニス春季リーグ戦
6部Cブロック 3位

バドミントン部

京都学生バドミントンリーグ戦大会(男子)
3部1ブロック 3位

京都学生バドミントンリーグ戦大会(女子)
3部2ブロック 優勝(2部昇格)

関西学生バドミントン春季リーグ戦(男子)
6部Dブロック 4位

関西学生バドミントン春季リーグ戦(女子)
4部Bブロック 5位

空手道部

第24回京都市空手道選手権大会
準優勝
西村 繪太郎 / 人文情報学科第3学年
3位
高野 隼 / 哲学科第3学年

サッカー部

第90回関西学生サッカーリーグ(前期)
3部Aブロック 優勝

第41回関西学生サッカー選手権大会
2回戦敗退

卓球部

春季関西学生卓球リーグ戦(男子)
4部Cブロック 優勝
敢闘賞
岩崎 雄一郎 / 仏教学科第4学年

春季関西学生卓球リーグ戦(女子)
4部Aブロック 5位

硬式野球部

京滋大学野球春季リーグ戦
1部 6位

2012年度春季大会結果



Campus Information

◆◆ 学生主体の活動紹介

大谷大学オリジナルグッズ「Otani Coffee」

新入生歓迎実行委員会・学園祭実行委員会

この春、新入生歓迎実行委員会が近隣の喫茶店「伊藤珈琲」の協力により、大谷大学オリジナルブレンドコーヒーを完成させました。実行委員会スタッフが何度も試飲を行い、コーヒー好きがブラックで飲むのをイメージした「はるかぜ」と、コーヒーが苦手な人でもミルク、砂糖を入れて飲むことができるようにブレンドした「Young Leaves」の2種類です。

また、夏に向けて、学園祭実行委員会のスタッフがアイスコーヒー「和(なごみ)」のブレンドを行いました。これら大谷大学のオリジナルコーヒーは、学内のセブン-イレブンで販売しており、伊藤珈琲でも購入できます。



シンポジウム「ポップ・カルチャー進化論～視覚コンテンツの現在・過去・未来～」

人文情報学科



人文情報学科では、8月のオープンキャンパスとの併催でシンポジウム「ポップ・カルチャー進化論～視覚コンテンツの現在・過去・未来～」を開催しました。

今回のシンポジウムは、学科有志学生により運営されており、イベント告知のためのチラシや団扇、ホームページのデザイン制作や、当日用のスタッフTシャツをつかって案内誘導を行いました。また、デザイン制作の過程からメイキングビデオの撮影をしており、その編集も行って、9月のオープンキャンパスにおきまして、人文情報学科の学び紹介として、高校生たちの前でプレゼンテーションを行いました。

地域交流イベント「おおたにキッズキャンパス」

教育・心理学科

小学校や幼稚園の教員を目指す学生が中心となり、地域交流や施設開放を目的にさまざまな講座やイベントを「おおたにキッズキャンパス」として開催しています。

子どもたちが楽しんで学べるように毎回テーマ・内容を工夫し、学生主体でイベントを実施運営しています。地域交流に貢献するだけでなく、学生にとって、子どもと触れ合いながら学ぶ貴重な機会となっています。



人事情報

◆退職

【教育職員】

藤田 昭彦(特別任用教授・短期大学部) 2012年4月10日付

佐藤 義寛(教授・文学部) 2012年6月11日付

◆館長などの交代

【幼稚園長】

佐賀枝 夏文(前幼稚園長 藤田 昭彦) 2012年5月25日付

◆依願退職

【教育職員】

根来 麻子(任期制助教) 2012年9月30日付

【事務職員】

窪田 純(企画・入試部) 2012年5月31日付

【技術職員】

林 光美(総務部) 2012年9月30日付

【事務系嘱託】

井上 舞(教育研究支援部) 2012年8月31日付

◆新規採用

【事務系嘱託】



加藤 里亜
(企画・入試部)

2012年9月1日付

現在の就職環境

2008年のリーマン・ショック以降、長引く経済不況などの影響を受け、大学新卒者の有効求人倍率(学生一人あたりの求人件数)は、一昨年1.28倍、昨年1.23倍と低下していましたが、本年は1.27倍と若干向上しました。また、2013年3月卒業予定者の6月時点の内定率は、直近の3年で最も高い水準となっており、就職環境は若干好転しているとの報道がなされております。

このような状況の中、企業における採用意欲は高まりつつあるものの、企業にとっては「採用難の時代」といわれています。採用意欲の高い企業であっても、求める人物像の学生と出会えなければ採用しないという厳選採用の傾向にあり、学生にとっては依然厳しい就職環境にあります。

一方、学生の就職活動においては、2013年3月卒業予定者の活動から「倫理憲章」が改定され、従来10月1日であった企業による採用広報活動の開始時期が、12月1日となりました。ただし、選考活動は、従来通り4月1日開始と変更されなかったため、会社訪問や応募書類(エントリーシート・履歴書)の提出などが短期間に集中し、業界・企業研究を十分に行わないまま、選考に臨まざるを得なかった状況となりました。また、近年は選考の際、面接が重視される傾向にあるため、採用活動期間の短縮により、書類選考や筆記試験の基準が厳しくなっております。

以上のことから、従来よりも本格的な採用活動が始まるまでの事前準備が選考結果に大きく影響するため、できるだけ早い段階から卒業後の将来を意識することが重要です。学業に限らず、大学生活全般を通して、さまざまな経験を積みつつ、特に社会人に求められる「基礎学力」「コミュニケーション力」「主体性」「協調性」などを養うことが肝要です。

保護者の皆さまへ

厳しい就職環境の中、学生諸君は初めての経験で不安や戸惑いから大きなストレスを抱えて活動することとなるため、特に保護者からの励ましが大きな力となります。例年、就職活動を終えた学生から「迷っている時に背中を押してくれた」「辛い時にじっくり話を聞き、社会人としてアドバイスをしてくれた」という声が聞かれるように、学生にとって保護者は「ホッとできる場所」です。自らの夢に向かうとともに、自立をめざす学生諸君をご家庭でもサポートしていただければ幸いです。

キャリアセンターでは、就職に限らず、個々の学生が納得のいく進路決定ができるよう個別相談に重点を置きつつ、各種ガイダンスや講習等、さまざまな支援プログラムを実施しています。是非、学生諸君にはキャリアセンターを活用していただくよう願っています。

2011(平成23)年度卒業生進路決定状況

●●●文学部

卒業生	就職希望		進学		聴講生科目等	一時的な仕事に就いた者	左記以外
	就職者	就職活動継続	大学院	大学短大専修学校			
718	403	86	33	20	21	81	74

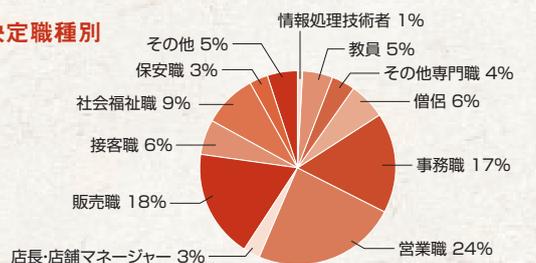
就職率 = $\frac{\text{就職者}}{\text{卒業生}}$	内定率 = $\frac{\text{就職者}}{\text{就職希望者}}$
56.1%	82.4%

- 製造業
 - エンゼルプレイングカード製造(株)
 - (株)永楽屋
 - (株)オンワード樺山
 - (株)グラフィック
 - 甲賀高分子(株)
 - (株)コーセー
 - 洲崎鋳工(株)
 - 千寿製業(株)
- 情報通信業
 - NRIネットコム(株)
 - エヌ・ティ・ティ・アドバンステクノロジ(株)
 - トランスコスモス(株)
 - 日本システム技術(株)
- 医療・福祉
 - (医)恵心会京都武田病院
 - (医)同仁会京都九条病院
 - (株)ファーマシー
 - (財)京都工場保健会
 - (株)メッセージ
 - (財)京都地域医療学際研究所(社福)きらくえん
 - (社福)京都市社会福祉協議会
- 教育・学習
 - 佐賀龍谷学園九州龍谷短期大学
 - 大谷大学・大谷大学短期大学部
 - 宇治市教育委員会
 - 大阪市教育委員会
 - 京都市教育委員会
 - 函館大谷高校
 - (株)ウイルウェイ
 - (株)東海プロセスサービス志門塾

- 運輸・倉庫業
 - (株)サカイ引越センター
 - 佐川急便(株)
 - 東海旅客鉄道(株)
- サービス業
 - 大田市観光協会
 - (財)木口ひょうご地域振興財団
 - (株)いかかく
 - (社)京都微生物研究所
 - 京都市農業協同組合
 - 滋賀県信用農業協同組合連合会
 - 信州うえだ農業協同組合
 - 奈良県農業協同組合
 - (株)キッズ・コーポレーション
 - セントラルスポーツ(株)
 - ミスノスポーツサービス(株)
 - 総合警備保障(株)

- 商社
 - 宇野(株)
 - 京都青果合同(株)
 - 三笑堂
 - (株)ジーネット
 - 総合食品エスイー(株)
 - ダンロップタイヤ近畿(株)
 - ツルタ電機(株)
 - (株)トゥモローランド
 - (株)鳥羽洋行
 - 中商事(株)
 - ニシムラ(株)
 - 富士ゼロックス大阪(株)
 - (株)ワークマン
- 小売業
 - (株)エンチャー
 - (株)ガリバーインターナショナル
 - 京都日産自動車(株)
 - (株)クロスカンパニー
 - コーナン商事(株)
 - (株)コスモネット
 - (株)コメリ
 - 滋賀トヨベツ(株)
 - (株)鳥忠
 - シミズ薬品(株)
 - (株)スズキ自販滋賀
 - (株)セブンイレブン・ジャパン
 - (株)ハートフレンド(スーパーフレコ)
 - (株)パロー
 - (株)バル
 - (株)平和堂
 - (株)マツモト
- 金融業
 - (株)京都銀行
 - 上田信用金庫
 - イオンクレジットサービス(株)
 - 岡山地区農業共済組合
- 宗教
 - 真宗大谷派宗務所
 - 真宗大谷派名古屋別院
- 公務
 - 京都市人事委員会
 - 京都府警察本部
 - 滋賀県警察本部

●●●就職決定職種別



●●●短期大学部

卒業生	就職希望		進学		聴講生科目等	一時的な仕事に就いた者	左記以外
	就職者	就職活動継続	編入	大学短大専修学校			
93	67	3	14	0	1	5	3

就職率 = $\frac{\text{就職者}}{\text{卒業生}}$	内定率 = $\frac{\text{就職者}}{\text{就職希望者}}$
72.0%	95.7%

- 幼稚園
 - アソカ幼稚園
 - 安町幼稚園
 - 今宮幼稚園
 - 近江八幡市役所(幼稚園教諭)
 - 大谷幼稚園
 - かもがわ幼稚園
 - 衣笠幼稚園

- 保育所
 - 木船幼稚園
 - 篠村幼稚園
 - 中央幼稚園
 - 西京極幼稚園
 - むらさき幼稚園
 - 吉田幼稚園
 - 洛西花園幼稚園

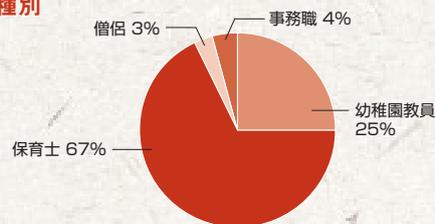
- 保育所
 - あさひ保育園
 - 市原野保育園
 - 太秦保育園
 - 衣笠保育園
 - 甲良町役場(保育士)
 - このしま保育園
 - 阪手保育園

- 養護施設
 - 西院保育園
 - せいこだい保育園
 - せんだん保育園
 - セヴァ・子ども学園
 - チャイルドハウス
 - 知真保育園
 - 月かげ保育園

- 養護施設
 - 長浜愛児園・小谷保育園
 - 長浜学舎
 - 南郷保育園
 - 彦根市役所(保育士)
 - 彦根福祉会
 - ふたば保育園
 - 船橋保育園

- 養護施設
 - バスタロッチ保育園
 - 星の子保育園
 - まこと幼稚園
 - 万因寺保育園
 - 森の子保育園
 - 陵ヶ岡保育園
- 宗教
 - 真宗大谷派宗務所

●●●就職決定職種別



大谷大学・大谷大学短期大学部 財務概況

2011年度決算

2011年度決算は、公認会計士および監事の監査を経て、2012年5月26日に開催された学校法人真宗大谷学園理事会・評議員会において承認されました。

本学の会計は、公認会計士による監査を定期的に受けて処理されています。

また、計算書類は、「学校法人会計基準」に従って、「資金収支計算書」「消費収支計算書」「貸借対照表」を作成しており、毎年、決算承認後、文部科学大臣に届け出しています。

資金収支計算書

資金収支計算書は、当該年度において現実に収納し、また支払った資金の収入と支出について、その顛末を明らかにするものです。

資金収入には、授業料や入学検定料、寄付金、国からの補助金のほか、次年度の授業料等の前受金等が含まれます。

2011年度は、名誉教授の雲井昭善先生より奨学金として活用するようにとのご意向で2000万円のご寄付をいただきました。

資金支出には、学生の教育研究および学生生活にかかわる教育研究経費や教職員の人件費の他に、学生募集の広報等の管理経費と、施設や設備関係支出があります。教育研究経費には、就職支援のための経費、教職支援や実習支援に関する経費や、2012年4月から導入したWeb聴講登録の構築に関わる支出が含まれています。施設関係支出では、学生生活の環境改善およびバリアフリー化のためのトイレの改修の支出がありました。

消費収支計算書

消費収支計算書は、授業料や寄付金などの収入(帰属収入)と、施設・設備の減価償却額や資産除却額などを含む、その年度に消費する支出(消費支出)との内容および均衡の状態を明らかにするものです。

貸借対照表

学校法人の目的である教育研究活動には、施設や設備など膨大な運用財産を必要とします。貸借対照表は財産保有の状況を表し、財産が適正に維持・管理されているかどうかを示すものです。

※当学園全体の貸借対照表はホームページで公表しています。

●●●2011年度資金収支計算書(2011年4月1日～2012年3月31日) (単位 円)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
学生生徒等納付金収入	3,958,444,000	人件費支出	2,672,843,682
手数料収入	101,564,200	教育研究経費支出	1,119,002,894
寄付金収入	182,820,000	管理経費支出	424,904,096
補助金収入	438,827,050	借入金等利息支出	20,997,900
国庫補助金収入	438,504,000	分担金支出	12,000,000
地方公共団体補助金収入	323,050	借入金等返済支出	111,100,000
資産運用収入	170,886,299	施設関係支出	37,200,865
資産売却収入	7,500,000	設備関係支出	151,033,762
事業収入	43,236,326	資産運用支出	720,560,000
雑収入	146,322,858	その他の支出	73,303,438
前受金収入	652,264,000		
その他の収入	53,452,477		
資金収入調整勘定	△ 822,032,000	資金支出調整勘定	△ 82,798,711
前年度繰越支払資金	7,261,947,563	次年度繰越支払資金	6,935,084,847
収入の部合計	12,195,232,773	支出の部合計	12,195,232,773

●●●2011年度消費収支計算書(2011年4月1日～2012年3月31日) (単位 円)

消費収入の部		消費支出の部	
科目	金額	科目	金額
学生生徒等納付金	3,958,444,000	人件費	2,620,375,915
手数料	101,564,200	教育研究経費	1,671,721,907
寄付金	202,571,178	(うち減価償却額)	(550,692,806)
補助金	438,827,050	管理経費	447,620,780
国庫補助金	438,504,000	(うち減価償却額)	(22,346,654)
地方公共団体補助金	323,050	借入金等利息	20,997,900
資産運用収入	167,504,898	分担金	12,000,000
事業収入	43,236,326	資産処分差額	6,751,561
雑収入	146,805,580	消費支出の部合計	4,779,468,063
帰属収入合計	5,058,953,232	当年度消費支出超過額	86,668,703
基本金組入額合計	△ 366,153,872	前年度繰越消費収入超過額	3,566,432,293
消費収入の部合計	4,692,799,360	翌年度繰越消費収入超過額	3,479,763,590

2012年度予算

2012年度予算は、2012年3月27日に開催された学校法人真宗大谷学園理事会・評議員会において承認されました。

2012年度は昨年10月に発表されたグランドデザインに沿って、国際交流や学内のバリアフリー化を重点とした予算を構築しています。具体的には響流館等のトイレの洋式化や、手摺りの設置などを計画しています。また、図書館では10万冊の追加収蔵を可能にするために、電動書

架導入の経費を計上しました。

現在の厳しい就職環境に対応するための取り組みを推進し、各種ガイダンスの開催等、キャリア支援のための予算を計上しています。

仏教精神に基づく本学の建学の理念の具現化によって、充実した学生生活を送ることができるよう、教職員の支援体制を強化し、教育研究の一層の拡充を図るために予算を執行してまいります。

大谷大学・大谷大学短期大学部 2011年度事業報告

主要な事業

グランドデザインの策定と学内外への発信

2011年10月13日開学記念式典において大谷大学が向こう10年間に取り組む内容、そして、その決意を「グランドデザイン」として世に表明しました。

この「グランドデザイン」は「真宗大谷学園存立の精神」の下、「仏教精神に基づき、社会を主体的に生きることのできる人物を育成する」ことを目的として、「教育」「学生支援」「研究」「社会貢献」「管理運営」の5つの方針からなります。具体的には、10年間を3期に区分し各学科・委員会・事務部局と大学構成員全てがそれぞれの立場で、具体的な行動計画を検討・立案し遂行することとなります。

教育及び学生支援に関する事業

①カリキュラムの点検、見直し

教務部会において、初年次教育・セット科目などのカリキュラムの見直し、及び副専攻制の導入を含めたカリキュラム改編を2013年4月から開始することを目指して検討を進めました。

副専攻制の導入においては、入学した学科の専門科目の学習のみならず、他の学科の専門科目も学習し、幅広い教養と学びを身につけることを目的としています。副専攻の種類については、教育・心理学科を除く全ての学科から、魅力のあるテーマと科目を提供することで準備を進めます。

また、セット科目を、グランドデザインに則した4つの分野の中から各自の学術的な興味・関心に見合う専門科目を自由に選択し、学修する形に変更することにしました。具体的には、語学力を高めるとともに多文化への理解や国際的なコミュニケーション能力の涵養を目指した「コミュニケーション系」、社会で貢献し活躍するための基盤づくりを目指した「キャリア形成系」、自らを取り巻く自然環境を知り、命やこころを見つめることを目指した「自然生命系」、歴史と文化をグローバルな視野から深めることを目指した「歴史文化系」の4つの分野のそれぞれから既定単位を修得することを必修とする形に改編する予定で進めます。

②教職支援センターの取り組み

教員を目指す学生への履修相談だけでなく、履修状況を踏まえたボランティア活動の支援や採用試験対策講習などについても、前年度までに培ってきたノウハウや教職アドバイザーによる的確な助言・サポートを行いました。

ボランティア活動には、幼稚園・小学校・中学校約80校に、のべ約250名の学生が参加しました。

地域連携事業では、地域の子どもたちを対象とした講座「おおたにキッズキャンパス」を開催しました。講座は「ベン立て・小物入れをつくろう」など、6講座を開講しました。

③国際化教育の取り組み

中国、インド、フランスへ、語学研修や文化研修等で67名の学生を派遣しました。

2011年10月13日に発表された本学のグランドデザイン<研究の英語化が進む「仏教学」について、英語で発信し、英語で学ぶ環境を整備することによって、国際的に「存在感」のある「仏教」教育実現>を実現するひとつの機会として、2009年度から毎年エトヴェシ・ロラード大学で本学教員が行っている英語による仏教に関する集中講義を、本学博士後期課程の学生2名が聴講する企画をグローバルスクエア主催で今年度初めて実施しました。講義の聴講に加え、学生は現地学生との交流やエトヴェシ・ロラード大学や、現地学生の仏教学の学びの現状などの聞き取りを行いました。

④課外活動活性化に対する支援

2011年度の補助金内容を見直し、説明を行ったところ、例年よりも補助金申請や関連する相談が増え、補助金執行率も増加し、積極的な課外活動への取り組みにつながりました。

また、東日本大震災後、学生会を中心に各種行事における義援金の募金活動を行いました。

ボランティア活動として、有志による東日本大震災復興ボランティアを計5回現地で行いました。

大学としてもスクールバスの使用や募集活動などの支援を行いました。活動内容は学園祭において参加学生が展示で紹介しました。

⑤学生のニーズや適性に応じた就職支援

採用実績や求人依頼のある企業に対する「人材ニーズ調査」を実施しました。調査結果は、調査委託会社より「結果報告レポート」として提出されキャリア部会委員内で情報共有しました。

就職ガイダンスや各種講習などキャリア支援プログラムについては、指導教員にも学生への周知協力を得ながら実施しました。あわせて、学生の就

職活動の進捗状況を共有することにより連携を強化しました。また、保護者との連携を図るために、現在の就職環境や本学のキャリアサポートプログラム等を紹介する『保護者のための就職ガイドブック』を編集するとともに、全国父母兄弟懇談会において「就職支援説明会」を実施しました。

学術及び研究に関する事業

①学位授与

優れた研究業績をまとめ、博士の学位申請を行った者の中から厳密な審査を経て、2011年度は課程博士8名、論文博士3名、合計11名に対して博士(文学)を授与しました。

②真宗総合研究所の研究

大学が主体となり、組織として責任を果たす共同研究(特定研究・指定研究)は、その中心的研究となります。今年度は(1)「建学の精神」教育推進研究を大学として最も重要な研究課題として「特定研究」に指定し、学長を研究代表者として取り組みました。その他、指定研究は(2)国際仏教研究(3)西藏文献研究(4)真宗同朋会運動研究を推進し、資料室として「大谷大学史資料室」と「東本願寺海外布教資料室」「親鸞関係文献目録資料室」「デジタル・アーカイブ資料室」の4件、一般研究として採択された共同研究7件、個人研究15件の研究プロジェクトを推進しました。

③外部資金による研究活動

本学では、真宗総合研究所を中心に外部資金による研究活動の推進に取り組んでいます。2011年度科学研究費補助金の採択結果は、本学教員を研究代表者とする研究では、基盤研究が8件、若手研究が5件、研究活動スタート支援3件(継続分を含む)でした。また、12名の教員が科学研究費補助金の研究分担者として他機関の研究代表者と共に活躍しています。

その他に、本学教員と株式会社KDDI研究所とのインターネットの通信品質についての共同研究が3年目の最終年度となりましたが、人文情報学科の学生にとっても、産学共同研究としての第一歩を踏み出すことができ、今後につながる大きな成果となりました。

組織及び施設に関する事業

①学内禁煙の実施

2011年度から学内禁煙を実施し、各種の取り組みなどを行いました。(1)スモークエリアを各キャンパス1カ所としました。(2)学生会及び職員によるマナー向上キャンペーンを行いました。(3)学内禁煙を周知するティッシュやマナーに関するリーフレットの配布や学内禁煙と書かれた「のぼり」や「横断幕」を設置しました。

②省エネルギー対策

学内の省エネに関する啓発活動と取り組みについて、クールビズ、ウォームビズなど大学全体での取り組み、昼休み消灯など各部署での取り組みや、個人で取り組める内容を整理し、推進しました。

なお、年度末には、烏丸西側キャンパス内の南向きに位置する教室・事務室の窓に熱線遮蔽フィルムを貼付し、冷房時の熱線透過と暖房時の暖気放出を抑制する効果を向上させるべく工事を実施しました。

社会への開放

①公開講座の開講

2011年度は、開放セミナー6講座、紫明講座7講座、京カレッジ特別コース1講座(大学コンソーシアム京都へ提供)を開講しました。

2010年度前期で終了した「シリーズ大乘仏教のあゆみ」が好評であったことから、2011年度からも複数年かけて一つのテーマに取り組める連続講座を企画し、前期に「シリーズ浄土三部経を読む」(受講者数153名)、後期に「シリーズ世界の仏教」(受講者数125名)を開講しました。

また、2月26日に、京都創生PR事業「京あるきin東京2012」(主催:京都市)での「京都の大学による特別講座」に1講座(「絵伝を読み解くー親鸞聖人四幅絵伝ー」)を提供し、本学初の東京での公開講座を行いました。

本学主催の地域交流事業については、2月29日と3月14日に大谷幼稚園にて大谷大学幼稚園開放セミナーを合計2講座開講しました。

②博物館

毎年、年1回の特別展と4回の企画展を実施しています。本館では、宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌を迎えるにあたり、2010年から2012年の3年連続で親鸞聖人をテーマとする展示を企画しました。その2年目である今年度特別展では、「親鸞ー真宗本廟の歴史ー」と題し、宗祖の教えを絶えることなく守り続けた真宗本廟(東本願寺)の歴史について、関係の宝法物を真宗大谷派ほか関係機関からも借用し展示しました。

教育後援会だより

父母兄姉懇談会について

「父母兄姉懇談会」は、教育後援会役員ならびに大学当局のほか、各関係事務部門の職員が出席して、大学の現状を説明し、個別の相談にも応じる懇談会です。また、大学出席者と保護者とのコミュニケーションを密にするとともに、保護者の皆様相互の親睦を図っていただくため、懇親会も併せて開催いたしております。

本年度は、7月に地区父母兄姉懇談会を北陸地区にて、また、9月に全国父母兄姉懇談会を本学にて開催いたしました。各会場とも、個別相談コーナーでは熱心な相談が寄せられました。

なお、今後の開催につきましては下記のとおりです。今後開催されます当該地区の皆様には、多数ご参加いただきますようお願い申し上げます。

◆九州地区父母兄姉懇談会

九州地区 父母兄姉懇談会	12月1日(土)	ホテルレオパレス博多 (福岡県福岡市)
	12月2日(日)	ホテル・レクストン鹿児島 (鹿児島県鹿児島市)

教育後援会評議員会が開催される

6月29日(金)13時30分より、大谷大学において教育後援会評議員会が開催されました。

評議員会では、「大谷大学教育後援会会則の一部改正(案)」ならびに「大谷大学教育後援会文芸奨励金規程の一部改正(案)」についてご審議をいただき、承認されました。

また、「2011(平成23)年度 事業報告及び収支決算報告、奨学基金収支決算報告及び事業報告」ならびに、「2012(平成24)年度 事業計画及び収支予算(案)、奨学基金収支予算(案)」についても、活発なご審議をいただき、それぞれ承認を得ることができ、役員の選出も行われました。

さらに、大学側(草野顕之学長、水島見一学監・副学長、古川哲史学生部長)からは、教育研究についてグランドデザインを中心に説明がなされ、学生生活の現況についても報告されました。詳細につきましては、8月に保証人の皆様に送付いたしました「大谷大学教育後援会報告書」をご高覧ください。



教育後援会

大谷大学教育後援会は、全在学生の保証人(父母兄姉等約4,000名)が会員となって組織され、大谷大学の教育・研究の発展と、学生生活環境の整備・改善に支援を行っています。また、会員相互並びに会員と大学との交流を深めることも目的に、各種の活動を行っています。なお、毎年、役員会・評議員会を開催して様々な事業計画を企画・推進しています。

教育振興資金(募金)について

このたびは、教育振興資金局の募金活動にご協力いただき、ありがとうございます。ご寄付いただきました資金は、教育・研究の充実を図るための環境整備に充ててまいります。

また、本学は文部科学大臣から、特定公益増進法人の証明(所得控除制度)、並びに税額控除に係る証明(税額控除制度)を受けておりますので、寄付者(個人)の選択により、どちらか一方の税法上の優遇措

置を受けることができます。

今後も引き続き、募金のお申込を受付けておりますので、ご支援賜わりますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

なお、2012年2月1日から2012年7月31日までの間、ご寄付いただいた方々のご芳名は次のとおりです。厚く御礼申し上げます。

●●● 教育振興資金寄付者(敬称略)

青山 直人 (滋賀県)	柄谷 勉 (兵庫県)	中島 繁美 (福岡県)	吉田 康德 (北海道)	[浄雲寺]
浅居 俊弘 (滋賀県)	雲井 昭善 (滋賀県)	中村 寿雄 (静岡県)	和田 一馬 (滋賀県)	相馬 温 (大分県)
天山 敬信 (愛知県)	小菅 宏造 (新潟県)	野瀬 繁和 (滋賀県)	渡邊 恵円 (新潟県)	[聖徳寺]
新井 義清 (京都府)	清水 正一 (富山県)	橋本 一哉 (兵庫県)	渡邊 登 (京都府)	青木 哲心 (北海道)
石川 易 (愛知県)	末森 潤 (石川県)	林 弘已 (長野県)	匿名 (12名)	[本覚寺]
石黒 正秀 (富山県)	高原 弘志 (滋賀県)	井田 謙 (福岡県)	(有)石間企画事務所 (東京都)	渥美 芳映 (石川県)
石島 理恵 (石川県)	高村 延芳 (京都府)	福島 達暁 (広島県)	(株)フラットエージェンシー (京都府)	[長照寺]
稲葉 是邦 (京都府)	瀧山 すはの (富山県)	本田 裕二 (和歌山県)		細川 淳 (愛知県)
鴫子 忍 (京都府)	巽 正俊 (大阪府)	真継 秀雄 (京都府)		匿名 (3名)
梅溪 得文 (岐阜県)	立野 幸雄 (富山県)	松代 暢 (石川県)		
大野 康正 (岡山県)	田原 宏章 (大阪府)	三松 高一 (福岡県)	[西念寺]	
小野 隆志 (鳥根県)	親跡 真由美 (新潟県)	安江 一博 (北海道)	梅溪 得文 (岐阜県)	
柏樹 利昭 (愛知県)	寺田 彰 (石川県)	安本 浩樹 (広島県)	[三寶寺]	
亀井 廣道 (長崎県)	暉 了 (新潟県)	山田 恵潤 (三重県)	目崎 薫 (神奈川県)	

◆ 件数 69件
◆ 寄付金総額 26,510,000円

●教育振興資金(募金)のお問い合わせについては、下記までご連絡ください。

教育振興資金事務局

〒603-8143 京都市北区小山上総町 大谷大学総務部校友センター内

TEL: 075-411-8124 FAX: 075-411-8157 E-mail: kouyu@sec.otani.ac.jp

私の外国語学習

この夏も、中国青海省に住むチベット人の友人に会うことができた。訪問の由は、あらかじめ電子メールで告げていた。メールでのやりとりを使うのは、チベット語。チベット語でメールというと驚く人もいるだろうが、2007年頃にユニコードに対応したチベット語フォントと入力のためのキー配列がMac OSとWindowsにそれぞれ標準搭載されて以降(Mac OSに搭載されているチベット語フォントやキー配列は、大谷大学で開発しアップル社に無償で提供したもの)、ネット上にはチベット語によるサイトやブログが次々と立ち上がった。メールはもちろんツイッターでも使える。ネット上でチベット語を使うのがあたりまえのようになった今、友人たちとのメールのやりとりの中で、「ああ、こんな表現をすればいいのか」と、その表現を別の人へのメールに使ったり、勉強させられる毎日が続いている。

を留守にしていたとのこと。地震以降の日本はどうかと、心配そうに尋ねてくれる。ネット上でのやりとりがあたりまえになり、彼我の距離が短く感じられるようになった今、なお、ここに来なければ出会うことのできない様々な書物を拝見し、敢えて手書きでその一部をノートに引き写しながら、彼としゃべっている時の私のチベット語は、彼のしゃべる方言と同じ調子になっていた。

どうも私には、話し相手のなまりに合わせて話してしまう癖がある。相手の言葉に合わせる／真似ることが、言葉を習得する第一歩であり、それを繰り返すことによって自分としての言語を磨き上げ、学んできたからなのかも知れない。その意味で、出会い、言葉を交わした人すべてが、手本を示してくれた町の、村の、寺の、人々すべてが、私にとってのチベット語の先生だと思っている。



国際文化学科 准教授
三宅 伸一郎
専門分野/チベット学

編集後記

今回の「私たちの先生」では、志藤修史先生とそのゼミ生を取りあげました。印象的だったのは、先生と学生という立場をこえた水平な関係。お互いを仲間といえる信頼感。本当の「先生」「仲間」に出あえたとき、いつでも帰れる心の居場所が見つかるのでしょう。

(編集担当)

時代を照らす仏教のことば

もし聞くと云わざれば、
すなわち我みずからに法あり。
我みずからに法あれば、
すなわち情に所執あり。

『注維摩詰經』

解説文はこちら → 大谷大学ホームページ <http://www.otani.ac.jp/1108>